

第三章 9) パルド耕地

(ピラ・ボンフィン駅 リベイロン、ボンフィン、ブエノポリス、クラビーニョス終点)



ボンフィン・パウリスタ駅 1960年 (リベイロン市へ行く時は必ず通過する)

*日野仙次郎、1912年5月、巖島丸 (「ブラジル同胞活躍の姿」115ページ)

*鶴田惣三郎、1912年、巖島丸、福岡県朝倉郡大福村出身、同駅パオ・アルト耕地で1ヶ年の義務農年遂行後、ベント・キリノ駅付近に移り、サン・シモン地方で米作に従事する。後年パラナ州トレスバラス移住地に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」)

*坂本寛、1913年10月、帝国丸、高知県高岡郡出身、ボン・フィン耕地配耕。ピンドラーマ町で米仲買、転じてカタンツーパー市競馬場経営。(「ブラジル日系紳士録」495ページ)

*嶺井政重、1917年12月、若狭丸、沖縄県国頭郡出身、ビーラ・ボンフィンに1農年就労、てんと転じてパラナグアに落ち着く。(「ブラジル日系紳士録」751ページ)

*犬山健三、1921年12月、若狭丸、佐賀県小城郡三日月村出身、同駅のサンタ・クルース耕地で義務農年遂行後、同耕地で大工に従事する。次男操を出生1年後の1923年にモジアナ線で亡くす。移転を繰り返してパラナ州トレスバラス移住地パルミットル区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」563ページ)

*万保義美、1929年6月、ラプラタ丸、安芸郡府中町出身、兄春人夫妻の構成家族でピラ・ボンフィン管内サンタ・リッタ耕地で就労、さらに働くこと5ヶ年。(「ブラジル広島県人発展史」115ページ)

*神成渡、1931年5月、ブエノス・アイレス丸、福島県田村郡滝根村出身、同駅サンタ・ルイザ耕地に3ヶ年就労する、後当耕主の任命によってパラナ州中部地方の耕主所有の耕地を監督する。この地はカストロ市

から奥地へと入るが1年で退散。後年トレスバラス移住地アサイ市に到着く。
(「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」 800 ページ)

*内田直熊、渡伯年数不明、鹿児島県樋之口町出身、同駅サンタ・ルイザ耕地で義務農年遂行後、リベイロン・ブレット市で5ヶ年鍼灸生活を営む。さらにドラデンセ線を経てパラナ州アサイ市に到着く。
(「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」 792 ページ)